

場面によって変化する自称詞及び対称詞の研究

The study on change of terms in conversation
—Focusing on the change to first personal pronoun and second personal pronoun—

ニン ティ ニャン ヴァン¹

¹大妻女子大学大学院人間文化研究科言語文化学専攻

Ninh Thi Nhan Van¹

¹Graduate School of Studies in Human Culture, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：人称，自称詞，対称詞，コミュニケーション，人間関係

Key words：Term, First personal pronoun, Second personal pronoun, Communication, Interpersonal relationship

抄録

日本語には、自称詞・対称詞が数多くに存在している。本研究では、そのように多様な自称詞・対称詞について、対人関係に基づくカテゴリーに分類した上、「話し手と聞き手の関係」から分析し、それぞれの用法を明らかにすることを目的とする。用例には、従来自称詞・対称詞に関する研究に、充分用いられてこなかったマンガをデータとして用いることとする。

1. 研究背景

日本語の自称詞（例えば「わたし」「ぼく」等）・対称詞（例えば「あなた」「きみ」等）は、よく知られるように多様であり、人間関係や場面によって様々に使い分けられている。

その多様性を反映するように自称詞・対称詞に関する研究は、様々な側面から取り組まれている。

例えば、西川（2002）・長田（2010）等の幼児の自称詞・対称詞の使用の研究や安井（2005）・永田（2009）のような特定のテキストにみられる自称詞・対称詞の研究、鈴木（1973）・松村（2001）のような談話に参加する人々の社会的属性に着目した自称詞・対称詞の研究、村中（2015）等の方言の研究、小嶋（2001）・Vu Thi Thu Thao（2009）のような日本語と外国語との対照研究、大浜（2001）のような日本語教育の視点から考察された研究がある。

例えば社会的属性に着目した鈴木（1973）では、40歳男性をモデルケースとして、日常会話に使用される自称詞・対称詞について調査している。ここでは、自己を中心に目上・目下を区別する親族の地位分割線を設けて、分割線に対する位置、あるいは人間関係の中の地位によって異なる自称

詞・対称詞の使用規則を挙げている。また、小林（2002）では、職場で録音されたデータベースを用いて対称詞を捉え、場面と対象となる協力者の社会的属性、とりわけ話者の性別・年齢と対称詞の用法との関係を詳しく分析している。

一方、発話の伝達意図の視点から自称詞・対称詞にアプローチする論考もみられる。例えば、仁田（1978）・（1991）では自称詞・対称詞及び他称詞について論じている。仁田（1978）は、文を＜表出型＞＜訴え型＞＜演述型＞の三種の類型に分けて分析し、文の類型によって人称に制限があると指摘している。＜表出型＞は自称詞に限られ、＜訴え型＞は対称詞のみを取り、＜演述型＞には人称制限がないと述べている。

さらに、仁田（1991）は、発話・伝達のモダリティを＜働きかけ＞＜表出＞＜述べたて＞＜問いかけ＞の4タイプに分けて、発話・伝達のモダリティに関わるガ格の人称代名詞の限定について触れている。

また、スタンコ・カタジナ（2011）は日本のドラマをデータとして、ガ格の一人称の明示条件を考察し、自称詞の一類である一人称代名詞の出現する場面を検討し、発話機能の面から、＜反論＞

<意思表示><個人の属性><感情の表現><物事の説明><告白><思考知覚表明><自己紹介><確認><情報の要求><否認>の11タイプに分類している。さらに、そのうちの<反論><意思表示><個人の属性><感情表現>という出現の比率が最も高い4タイプを特に考察し、ガ格の一人称代名詞の使用条件について検討している。

一方、緒方(2015)では、呼称を人名と敬称・職業名と役職名・人称代名詞・一般名詞類・親族名称に分け、それぞれの生成プロセスについて論じている。また、緒方は、例えば妻のことを「お母さん」と呼んだり、息子のことを「お兄ちゃん」と呼んだりするような鈴木(1973)が触れた「虚構的用法」にみられる、起点が推移する現象(起点推移)についても論じている。

このように、先行研究では様々な視点から自称詞・対称詞について取り組まれているが、自称詞・対称詞の分類方法が確立されているとは言いがたく、自称詞・対象詞の種類や、考察対象とする場面も限られており、それらの考察が今後の課題として残されている。

2. 研究方法

本研究では、自称詞・対称詞の用法を明らかにすることを目的とする。そのため日本語にみられる自称詞・対称詞を人称代名詞・役職名等下記の7種のカテゴリーに分類した上、「話し手と聞き手の関係」について考察する。

このような研究に取り組む場合には、日常的に交わされる自然な談話をデータとして用いる方法も考えられるが、自然な談話データでは談話の流れや参加者の人間関係と自称詞・対称詞の用法について分析する際に必要な情報が充分でないケースがみられる。そのため、情報がより明確に見えるコンテンツを考察する必要がある。そのようなコンテンツの中でも、マンガは登場人物の人間関係・ストーリーの展開等が読者に伝えられるように構成されており、分析に必要な情報が示されていることが多い。また、従来マンガをデータとして用いる自称詞・対称詞の研究は管見の限り極めて少なく、先行研究にはみられない新しい知見を得ることができるものと考えられる。

考察の対象は、現実の社会生活を描いた作品であり、且つ2000年以降に出版された下記の12巻に絞ることとする。

ひぐちアサ(2001)『家族のそれから』

羽海野チカ(2002)『ハチミツとクローバー』
第1巻

安野モヨコ(2004)『働きマン』第1巻

高橋しん(2005)『トムソーヤ』

芦原妃名子(2007)『月と湖』

高嶋ひろみ(2008)『未満恋愛』第1巻

岸本ナオ(2008)『雨無村役場産業課兼・観光係』
第1巻

ろびこ(2009)『となりの怪物くん』第1巻

冬目景(2009)『ももんち』

ヤマシタトモコ(2010)『HER』

渡辺ペコ(2012)『BODER』第1巻

上記12巻の作品から収集した自称詞・対称詞の用例は1592例である。そのうち、自称詞は616例、対称詞は976例がある。

3. 自称詞・対称詞の分析

3.1. 自称詞・対称詞のカテゴリー

先に述べたように日本語には多様な自称詞・対称詞がみられるため、研究によってカテゴリーの分類法が様々に示されている。例えば、鈴木(1973)では自称詞・対称詞のカテゴリーとして「人称代名詞」「親族名称」「役職名称」が挙げられている。また、緒方(2015)では、より詳しく「人名・敬称」「職業名・役職名」「人称代名詞」「一般名詞類」「親族名称」「ゼロ自称詞・対称詞」が示されている。

一方、日本社会における人間関係は、三宅(1995)によると、自分を中心にし、ウチ・ソト・ヨソに分けられるという。また、それと同時に上下関係も密接にかかわっているものと考えられる。したがって、本研究では、今回収集したデータに基づいて、緒方(2015)を参考にし、以下のようにウチ・ソト・ヨソの区別と上下関係の区別を考慮したカテゴリーを立てることとする。

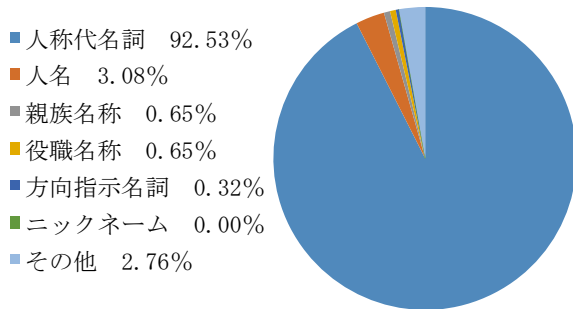
- ① 「人称代名詞」(わたし、ぼく、あなた、きみ等) 自称詞 570 例、対称詞 241 例。
- ② 「人名」(姓名・苗字・名前・略名を含む 自称詞・対称詞) 自称詞 19 例、対称詞 578 例。
- ③ 「役職名称」(姓名・苗字・名前・略名が前に付くあるいは付かない社会的地位を表す 自称詞・対称詞: 先生、部長、森田先輩等) 自称詞 4 例、対称詞 89 例。

- ④ 「親族名称」(姓名・苗字・名前・略名が前に付くあるいは付かない親族関係における地位を表す名詞:お母さん,透子おばあちゃん等) 17例, 36例。
- ⑤ 「ニックネーム」(略名を含めない名前からのニックネーム,個人の特徴からのニックネーム) 自称詞0例,対称詞16例。
- ⑥ 「方向指示の自称詞・対称詞」(方向指示代名詞からなる自称詞・対称詞:こっち,そちら等) 自称詞4例,対称詞0例。
- ⑦ その他(「お二人」,「みんな」,「うち」等) 自称詞例17例,対称詞17例。

①, ②, ③, ④, ⑤の категорияは緒方(2015)での「人称代名詞」「人名・敬称」「役職名称・職業名称」「親族名称」「ニックネーム」と一致するが,⑦は緒方(2015)で触れられていない。一方,緒方(2015)にみえる「ゼロ呼称」はデータとして自称詞・対称詞が現れていないため本研究で取り扱わないこととする。

3.2. 自称詞・対称詞の用法

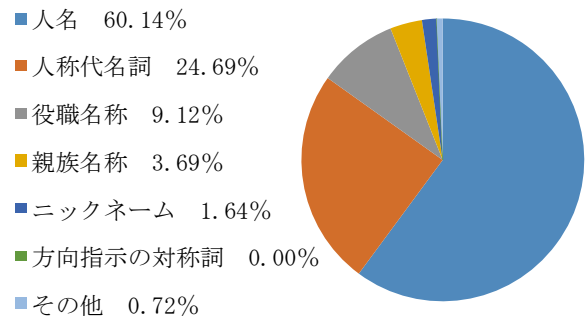
対象とする作品から収集した自称詞・対称詞の各カテゴリーの出現率はグラフ1, グラフ2のとおりである。



グラフ1—自称詞の各カテゴリー

自称詞については,人称代名詞が各カテゴリーのうちで最も多く,92.53%を占めている。次は人名3.08%である。役職名称と親族名称は同じく0.65%みられる。但し,役職名称の場合は特定の職業(いずれも「先生」と特定の場面(教師が小学生に対して話しかける場面)にしかみられない。そのような用法は鈴木(1973)において「共感的同一化」が働いたものと指摘されている。一方,緒方(2015)では,同様の例を「同一化とせず起

点となる自我が移動した」と説明している。この場合は,相対的な人間関係を充分把握できていない小学生の立場に立ち,相手の視点からみたときの呼称を自称詞として用いている例と考えられる。一方,ニックネームについては,例えば「しおりん」等のように少女の可愛らしさを強調する「役割語」の働きで作品中に自称詞としてよく用いられる場合があるが,今回の考察データには用例が見当たらない。また,その他は「うち」のように「ウチ・ソト・ヨソ」の区別として使われているか,自称詞として使われているか区別の難しい例がみられる(グラフ1)。



グラフ2—対称詞の各カテゴリー

このような自称詞に対して,対称詞の各カテゴリーの内,最も出現率が高いものは人名(60.14%)である。続いて人称代名詞(24.69%),役職名称(9.12%),親族名称(3.69%)の順になる。「人名」と「人称代名詞」は,目下に対する対称詞として用いられることが一般的である。それに対して「あなた」等の目上に対するものも現れるが,極めて少ない。対称詞として「人名」を目上に向かって使用する場合,例えば会社内で部下が部長のことを「〇〇さん」と呼ぶことは適切な用法であるが,親族の間には,子供が親のことを「〇〇さん」と呼ぶことはあまりみられない。それに対して,「人称代名詞」は対称詞として目上に対して通常使えない。このような用法の制限が,「人称代名詞」と「人名」の出現率の結果に影響しているものと考えられる。

役職名称・親族名称については,目上に対する対称詞として用いられ,目下に向かって用いられる対称詞の例は,今回のデータには現れていない。また,ニックネームは1.64%である。ニックネー

ムの対称詞は学校・職場等の同じ環境で比較的親しい親友の間にみられる。尚、『雨無村役場産業課兼・観光係』の春野銀一郎という登場人物は地元の住民に「銀ちゃん」と呼ばれている。また、東京にいる銀の大学同級生は3人登場し、3人とも春野銀一郎に対して「銀いっちゃん」を対称詞として用いる¹⁾。一方、方向指示名詞については、例えば「そっちが悪いだろう」のように対称詞として用いられることも想定されるが、今回の考察データには例がみられない(0.00%)。「その他」には「お二人」等がみられる。(グラフ2)

データから収集した自称詞と対称詞の出現数については、用いられている自称詞は616例、対称詞は976例がみられ、対称詞の出現率は自称詞の1.58倍となり、対称詞がより多く用いられている。一方、日本語と韓国語の小説の対訳資料を用いた鄭惠先(2002)²⁾には、日本の小説の原作と韓国の小説の日本語翻訳版の会話文が挙げられているが、そこにみられる自称詞・対称詞の「使用頻度」の比率を検討すると原作は1:1.63、翻訳版は1:1.35、それらを平均すると対称詞が自称詞の約1.5倍となっており、本研究で収集した出現率とは逆の結果となっている。このような結果となった理由としては、小説とマンガというデータの表現方法の相違を挙げることができる。例えば、対称詞の呼びかけがマンガでは頻繁にみられるが、小説で対称詞の呼びかけが、会話文ではなく地の文にみられ、対称詞の会話文における出現率が低くなる。このような差が結果に反映しているものと考えられる。

自称詞・対称詞にみられる各カテゴリーの出現状況を比較すると、上記に述べたように自称詞においては、「人称代名詞」が9割以上を占めているが、対称詞においては2割以上だけを占めている。話し手と聞き手の相対的な関係を最も確に把握して伝えられる自称詞は、例えば「ぼく」「わたし」等のような「人称代名詞」であるという理由もあるが、自称詞の場合には上記に述べた対称詞にみられるような使用制限がないため、使用率が高くなるものと思われる。

「親族名称」については、自称詞(0.65%)のほうが対称詞(3.69%)よりも出現率が、やや小さくなっている。上記に説明したように、親族間では、目上に対して対称詞として「親族名称」を主に用いる。目上から目下に対しては自称詞とし

て「人称代名詞」と「親族名称」から選択できるが、その場合の「親族名称」の用法は鈴木(1973)にみえる「虚構的用法」に当たるものであり、出現率は極めて低い。目上は目下に対する対称詞として「親族名称」を使わず、「人称代名詞」や「人名」を用いるため、「親族名称」の自称詞と対称詞の出現率にこのような差が表れたものと考えられる³⁾。

「役職名称」については自称詞の0.65%の出現率を占めているが、対称詞の場合は9.12%を占めている。このような自称詞と対称詞の出現率に差については「親族名称」の場合と同様に目上と目下の関係からの解釈が可能である。また、「役職名称」については上記に説明したように、自称詞として用いられることが特定の職業・場面にかみられないため、このような出現率が理解できる。

「ニックネーム」については考察した限りにおいて、自称詞が現れず、対称詞として用いられた例に限られるため、さらなる考察が必要であろう。

4. 今後の課題

本研究では、2000年代の12巻のマンガから得た自称詞・対称詞の用例(1592例)を検討し、7つのカテゴリーに分類した。マンガに用いられる言葉は絵によって発話の現場の情報の示されることが多いため、表現が短縮される傾向がある。また、読者の存在を意識しながら作成されるコンテンツとして自然談話の場合と比較して役割語などの登場人物の役割・性格等を鮮明にするための情報がみられることがよく知られている。そのような特徴にも配慮しつつ、検討を行った。

その結果、自称詞・対称詞ともに各カテゴリー間の使用率の差がみられ、自称詞と対称詞の間にもカテゴリーの出現率の差が認められた。それらの用法には使用制限の状況など上下関係が大きくかわっていることを分析したが、今後ウチ・ソト・ヨソの関係を加えて検討することが必要である。

人称代名詞の使用率については、本研究と異なるデータの示すものがみられる。例えば、付敏(2007)⁴⁾では、日本人向けの中国語月刊学習雑誌に掲載されたラジオドラマの日本語訳版にみられる一人称代名詞(自称詞としての人称代名詞)・二人称代名詞(対称詞としての人称代名詞)の「使用頻度」⁵⁾を検討するとほぼ同じ(1:1.07)である

が、本研究で考察した結果では一人称代名詞・二人称代名詞の出現率が 2.37:1 であり、一人称代名詞は二人称代名詞の 2 倍以上になる。したがって、本研究で収集したデータの結果は先行研究と大きな差がみられるため、この点についても今後検討する必要がある。

註

- 1) 同様に『となりの怪物くん』に登場している「笹々原」は「ささやん」のニックネームで人々に呼ばれているが、雫と夏目の二人の友人には「ささやんくん」と呼ばれている。本研究では、その場合の「銀ちゃん」「銀いっちゃん」「ささやんくん」はニックネームではなく、「人名」として取り扱う。
- 2) 鄭惠先. 日本語と韓国語の人称詞の使用頻度：対訳資料から見た頻度差とその要因. 日本語教育. 114 号. 2002. 参考
- 3) 例えば日本語においては、親が子供に向かって「娘」「息子」「子供」等の「親族名称」を対称詞として使わない。
- 4) 付敏. 日中両言語における人称代名詞の対照研究. 奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム 古代日本形成の特質解明の研究教育拠点. 2003. p7, p121-136. 参考
- 5) 同前

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所「大学院生研究助成」(DB2716) の助成を受けたものである。

引用文献

- [1] 鈴木孝夫. ことばと文化. 岩波書店. 1953.
- [2] 仁田義雄. 日本語のモダリティと人称. ひつじ書房. 1991.
- [3] 小林美恵子. 職場で使われる「呼称」. 現代日本語研究会. 男性のことば・職業編. ひつじ書房. 2002.
- [4] 金谷武洋. 日本語は敬語があって主語がない—「地上の視点」の日本文化論. 光文社新書. 2010.
- [5] スタンコ・カタジナ. 日本語における主格の一人称代名詞の明示—<反論><意志表明><個人の属性><感情表明>について. 日本語・日本文化研究. 2011, 21, p.151-164.
- [6] 緒方隆文. 呼称のカテゴリー分析. Jonai of hikushi Jogakuen University and Junior College. 2015, 10, p.7.

Abstract

Japanese has a large number of address terms. This study focuses on the first and the second pronouns, using data taken from Japanese comic, and analysing the way they are used in conversation from viewpoints of “utterance intention”, “scene of utterance” and “interpersonal relation of speaker and audience”.

(受付日：2016年7月6日，受理日：2016年7月14日)

NINH THI NHAN VAN (ニン ティ ニャン ヴァン)

現職：大妻女子大学大学院人間文化研究科言語文化学専攻国際文化専修修士2年